



Cisco HyperFlex Kubernetes サポート

- [サポートの概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco HyperFlex CSI 相互運用性メトリックス \(2 ページ\)](#)

サポートの概要

Cisco HyperFlex での Kubernetes のバージョンまたはディストリビューションのサポートを決定する際に考慮する必要がある 2 つの主要なコンポーネントがあります。

- Cisco HyperFlex での Kubernetes バージョンまたはディストリビューションのサポート。
- 特定の Kubernetes バージョンまたはディストリビューションとの Cisco HyperFlex Container Storage Interface (CSI) ストレージ統合のサポート。



(注) Kubernetes ストレージ特別利益団体 (K8 SIG コミュニティ) は、ストレッチ クラスタではサポートされていません。

一般に、Cisco HyperFlex は Kubernetes のすべてのバージョンまたはディストリビューションをサポートしますが、Kubernetes の Cisco HyperFlex CSI ストレージ統合でテストされ、推奨されるバージョンとディストリビューションの特定のサブセットがあります。また、HyperFlex CSI ストレージ統合を使用せずに Cisco HyperFlex で Kubernetes およびコンテナベースのワークロードを実行することもできますが、永続ストレージを必要とするステートフルな Kubernetes ベースのアプリケーションおよびサービスを実行する場合は、ネイティブ機能を活用することを強く推奨します。

Cisco HyperFlex Storage Integration for Kubernetes により、Cisco HyperFlex が Cisco HyperFlex で実行されているステートフルな Kubernetes ワークロードに永続ストレージを動的に提供することを許可します。この統合により、Cisco HyperFlex が永続ボリュームのオブジェクト ライフサイクル全体のオーケストレーションをオフロードおよび管理できるようになる一方で、最終的には開発者やユーザーがそれを、標準の Kubernetes 永続ボリューム クレーム オブジェクトを通じて駆動 (開始) できるようになります。開発者とユーザーは、開発者やユーザーの観点か

らは追加の管理オーバーヘッドを発生させずに、Kubernetes の永続ストレージのニーズに Cisco HyperFlex を活用するという利点を得ることができます。

Cisco HyperFlex CSI 相互運用性メトリックス

Cisco HyperFlex CSI および Kubernetes プラットフォームのバージョンとディストリビューションの相互運用性：

HyperFlex Data Platform バージョン	CSI 仕様バージョン	Kubernetes のバージョン	シスコ認定 CCP バージョン	シスコ認定 Anthos バージョン	iSCSI を開く
4.0(1a)	1.0	1.14	5.0、5.1	1.1、1.2、1.3	
4.0(2a)	1.0	1.15	5.1、5.2	1.3	
4.0(2b)	1.0	1.16	6.0、7.0	1.4.1	
4.0(2c)	1.0	1.17	6.0、7.0	1.5.1	
HXDP 4.5(1a)	1.2	1.18.2	-	-	Open iSCSI 2.0.874-5ubuntu2.10
HXDP 4.5(1a) HXCSI 1.2(1a)	1.2	1.18.2、1.19.8	-	-	Open iSCSI 2.0.874-5ubuntu2.10
HXDP 4.5(2b) HXDP 4.5(2d) HXCSI 1.2(1b)	1.2	1.18.2、1.19.8	-	-	Open iSCSI 2.0.874-5ubuntu2.10



(注) HXCSI は、Ubuntu 18.04 上の open-iscsi バージョン 2.0.874-5ubuntu2.10 で認定されています。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。